



ひなまつり 野崎祐助氏宅

津奈木

前はカキ

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話(78)3111(代)
印刷所 旭印刷
電話(水俣)4101番

日本には昔から冬の果ごもりの生活から解放され春の喜びを表わす祭りがあった。
人形(ひとがた)を作り、これに春の餅ともいえる草餅(よもぎ餅)や白酒や桃の花をあげて住民の無事のおハライをして祭りがすめばこれらを川や海に流した。後では人形を子供のお祭をした。後では人形を子供の人形に代えた。それが現在のひなまつりの源だろうといわれる。(東北大学教授竹内利美、丸山学先生も同説)

おひな壇
最上段の右はだり様、左はおひな様、両端ははんなり(おあかり)二段の女三人は官女、菱餅があがっている。三段目が五人ばやし(笛、小鼓、太鼓、歌う人、太鼓)四段目隨身と桜とちばな。お膳二つ、五段目傘持ち、くつ台持ち、

餅をつきながら心は海にとんでいった。つき終ると後仕末は婆さんに頼んで、用意しておいたショークとカキ打ちと、貝掘り鎌を持って走るように浜に急いだ。
旧三月の節句のピナを食わぬとグジになるといわれているので、男も女も海に行つた。
まだ潮が残っている渦に入ってしまった。足のとすにチカッと刺すものあり、それが蟹である。大泊の先の方で釣りを楽しむ大公望あり、裾をまくり上げて海中に入り海草を採る若い女、岸辺の岩場でカキ打つもの、濁の砂場でピナ拾う子供、現在の干拓のあたりが狩場であったが人間で埋まつた。潮の満つてくるときまで、息もせぬくらいに拾った戦果はスツシリと重い

新川

たのしいひなまつり (小学唱歌)
明かりをつけましょぼんぼりに
お花をあげましょ桃の花
五人ばやしの笛太鼓
今日はたのしいひなまつり
おだまり様とおひな様
二人ならんですまし顔
お嫁にいらした姉様に
よくにた官女の白い顔
金の屏風にうつる火を
かすかにゆする春の風
少し白酒召されたか
赤いお顔の右大臣

ひなまつりの由来
台傘持ち六段目鏡台、針箱、長持、七段目御所車、おかこ、重箱など。(女の児の遊び道具が飾られる。値段が高いと種類も多い)
オキアゲ人形
女の児が生まれると親戚知人から人形を贈った。糸の人形、陶器の人形(素焼に胡粉を塗って、色をつけた)オキアゲ人形(高低を綿で作った布で飾った板状人形)貰った方では神前に飾り、オキアゲは薬づけとに突き刺して飾った。貰った方ではそれらの人々を案内して祝った。

一言
一言提言の企画を依頼されて、厳しい冬のトンネルを抜けて、淡い小さな生命が生れる時期に、捨てる神ありや、拾う神ありの、一言の様に。
昨年暮れの粗材ゴミ収集に一言。年事に捨てる物が、まだまだ使える色々の物がある。もっと大切にすれば、何年も使用出来るのに、と、惜別の会話が、主婦のやりとりの中に「あつ、こんなもので捨てなつとやろか」そんな会話を聞きながら「そりやいらんとか、もったいなかばい、俺にそればくれんな修繕して使ってみるで」一台の小型自転車を、通りかかった知らないおじいさんが、もたらせて行った。その一台の自転車は唯空気がぬけて、チェーンがはずれているばかりに見えた。「そりやほんなこてよか自転車ばい、よかつたな、おじいちゃん」と、言う主婦は、一輪車の上に古いテレビを乗せて捨ててきていた。自分で今どんな気持ちで、一台の自転車を見ているのかな、と思ひながら主婦の会話を聞いていると、もったいないと、言いながら、今は自由に物が買える。そんな気持ちが先にある様に思われて、なんだか詫びしさがこみあげてくる。自分でも物を大切にしなければと心に言い聞かせながら、回収車を持っていた。厳しきの中に生きる生物を心から大切にしなければと。

優勝合串チーム

B & G 第五回母子ビーチボール大会
二位倉谷
三位平国上・染竹



B & G 第五回母子ビーチボール大会が、去る二月二十五日から二十六日までの二日間の日程で、十四チームが参加しナイターゲームで熱戦が展開された。大会の目的である、親子が一緒にスポーツに親しみ、ふれあいを深め健康的な家庭と体力づくりを図るという趣旨が十分に達成し大会が盛況に終了した。
大会の結果は、平国小学校体育館において練習を重ねた「合串チーム」が技とチームワークで見事に初優勝に輝いた。なお、二位倉谷チーム、三位が平国上チームと染竹チームの成績であった。

体育部長さん

はお決まりですか！
干拓堤防の千本桜の美しさに、いよいよスポーツの季節を感じます。

昨年度は体育部長さんを始め、各種目協会の役員、体協の役員さんには町民体育祭の参加奨励とお世話など一年間ご苦勞様でした。今年も「町民皆スポーツ」を大きな目標として頑張りますので、よろしく願います。なお、例年のとおり体協評議員会、体育部長合同会議(17日)を予定していますので、新役員を選出されたところは、町教育委員会または海洋センターまでお知らせ下さい。

安心して活動するために!!

現在加入されているスポーツ傷害保険の有効期限が三月三十一日で切れます。
四月一日からの活動は対象外となりますので、新たに加入しなければなりません。
昨年度は本町で七名の方が負傷され保険金が支払われました。この保険は傷害保険と賠償責任保険をくみ合わせた保険であり、割安な保険料で充実した補償内容になっています。61年度も保険料は昨年同様一、〇四〇円です。加入依頼書はすでに各地区の代表者宅へ郵送配布されていますので、なるべく早目に自から進んで加入してください。

スポーツ安全協会傷害保険(被保険者1名につき)

区分	保険料(年間)	傷害保険の保険金額			賠償責任保険のてん補限度額	
		死亡・後遺障害保険金額	入院保険金額	通院保険金額	身体賠償1事故につき	財物賠償1事故につき
第一種	A (子供会) 350円					
	B 420円					
	C 1,040円	1,200万円	3,700円	1,000円	5,000万円	100万円

○赤崎漁村センターと赤崎小学校体育館の落成式が十九日に行なわれたが、区民の喜びはその祝賀余興のプログラムが出場種目が多くしかも多種多様であったのを見てその張切り方がうかがわれた。きつと、この両施設は赤崎発展に大役を果たすであろうと信ずる。
庁舎美術館(キャッツ・アイ)○テレビKKTのキャッツ・アイ(午後六時〜六時半)を見た人も多しと思ひます。津奈木(町中)出身高橋明信さんの作です。キャッツ・アイは終わったようですから、新作が出るようになったら、機を見てお知らせします。
○町誌こぼれ話、われわれに関係の深い津奈木の歴史を身近に引き寄せて見せて下さった岡本秋徳さんに感謝します。次は筆者交代して同委員松崎茂生さんが、面白いお話をと想を練つておられます。
○三月節句のピナ食わぬとグジになるという海に出かけた。特に在(海に遠い)倉谷古中尾中尾川内上下門内野)は多かったようだ。なぜグジになるというのかを改めて考えてみた。栄養に関係がありそうだが。昔は蛋白質の摂り方が少なかった。三月の朔日の大潮は潮干狩り一番よい、この期にたくさん魚貝類を採って食え、そうすると蛋白質を補いウジのような病人にはならぬ。ということではあるまいか。天草では三月の潮に行かぬと色黒うなるというそつである。やはり栄養に関係ありそう。

編集後記

庁舎美術館(六) キャッツ・アイ

高橋 明信作



三 階 に 展 示

新庁舎創立二周年おめでとうございませう。寄贈致しました絵は、前作の「キャッツ・アイ」をイラストにしたものです。仕事とはいえ、まだまだ未熟なのに加え、時間も余りたえず、私自身、満足のいく出来ではありません。

追伸
つい最近まで、新作が、放送され、子供から親まで幅広く人気があり、私も毎日午後六時からの放送を楽しみに見ておりました。キャッツ・アイのファンです。再放送を楽しみにしております。

式典

赤小体育館落成
三月十九日午前十時三十分から同小体育館で関係者並びに地元総出で式典があった。

式典後、校区から出演し、歌や踊りを披露して落成を祝った。



赤崎小学校体育館落成

お礼のことば

児童代表

上村 修司

寒い冬も終わり、外はぽかぽかと暖かくなりました。

ぼくたち児童は、勉強に運動にがんばっています。

今ここに待ちに待った体育館が完成しました。

町長さんをはじめ、たくさんの方々のおかげで赤崎小学校にりっぱな体育館を造っていただき、ほんとうにありがとうございます。

ぼくたち児童は、とても感謝の気持ちでいっぱいです。

昨年の夏から七ヶ月の間、毎日毎日少しずつ出来ていく体育館を見てみると、大変な仕事だなあと思いました。

暑い日ざしの中、また、寒い雪のふる中、朝は早くから、夜はおそくまで、いっしょにけんめい働いてくださった工事のおじさんたちは、大変だったこと、し



三つの呼びかけ運動(県提唱)

- 一、きまりを守る運動
- 二、働く喜びを味わう運動
- 三、ボランティア活動に参加する運動

昭和六十一年三月十九日

町誌こぼれ話

加藤清正の「禁制札」あとがき

岡 本 秋 徳

加藤清正が津奈木に建てた「禁制札」の条文は、清正独自の発想になるものではない。天正二十年(一五九二年)正月、豊臣秀吉が京都において、朝鮮侵略軍の編成を行い、諸將に動員令を発したとき、その先手として、第一軍団長小西行長・第二軍団長加藤清正の両名に、渡海に先立つ一月五日与えた「制札」の条文がある。

禁制 高麗国
一、軍勢甲乙人等乱
妨狼籍之事
一、放火之事
一、對地下人百姓等

秀吉の死によって、日本軍は同年十一月末までに朝鮮から逐次撤退帰国し終えた。それから二年目したものである。

慶長三年(一五九八年)三月十八日、秀吉は京都伏見城の一室で病没した。

秀吉の死によって、日本軍は同年十一月末までに朝鮮から逐次撤退帰国し終えた。それから二年目したものである。

天正二十年正月 御朱印
(返点・振仮名は筆者)
秀吉のこの「制札」を敷き写にしたものである。

慶長三年(一五九八年)三月十八日、秀吉は京都伏見城の一室で病没した。

女子青年団員紹介

千 田 慎 子



津奈木小に着任して、はやいものでもう3年が過ぎました。右も左もわからなかった私に皆さんと

水俣市青年団と交歓会

二月二十二日に、私たち津奈木町連合青年団は、水俣の水東青年団と湯の鶴青年団で構成されている水俣市連合青年団との交歓会を持ちました。水俣の青年団は、現在九名で、色々の活動をしているとのことでした。

交歓会の内容は、まず、各自の自己紹介をし、本題へと入って行ったのですが、各青年団の団長より、年間の行事内容について説明され、今、どこの青年でも頭を抱えている「団員の確保について」ということで話し合ったところ、大変活発な討論が飛びかいた時間が過ぎてしまふ程でした。



交歓会風景

肥後狂句

堀 双岳選

着順

一寸待て、話があまりよすぎる
追つかん、かねて勉強しとかなん
一寸待て、今は言うべき事で無ア
追つかん、裸の孫がつかまらん
一寸待て、此処が思案のしどころ
追つかん、たまごはうんと食うば
一寸待て、こら口紅が赤チンか
追つかん、隠居が足の早やアこつ
追つかん、隠居が足の早やアこつ

また、水俣市津奈木の小島先生から「禁制」を「きんせい」と読む古い正しい読みのお教示をいただきました。

短歌

小嶋 正弘選

あと幾年の生命なるかや老二人運
そばすすり除夜の鐘聞
新春の願い厳しく初詣の宮は清
く明るし

友の忌はまためぐり来て庭隅に賜
いしバラの冬細く咲く

娘の家を訪えば隣家の石垣にみど
りはつかに蔭のとう立つ

寺本ツルヲ